

「地区別会議を細分化し最適化推進活動を本格化」

京都府 舞鶴市農業委員会 地区別連絡会議（①若浦、②白糸・青葉、③和田・城北、④城北・城南、⑤岡田、⑥八雲・神崎）

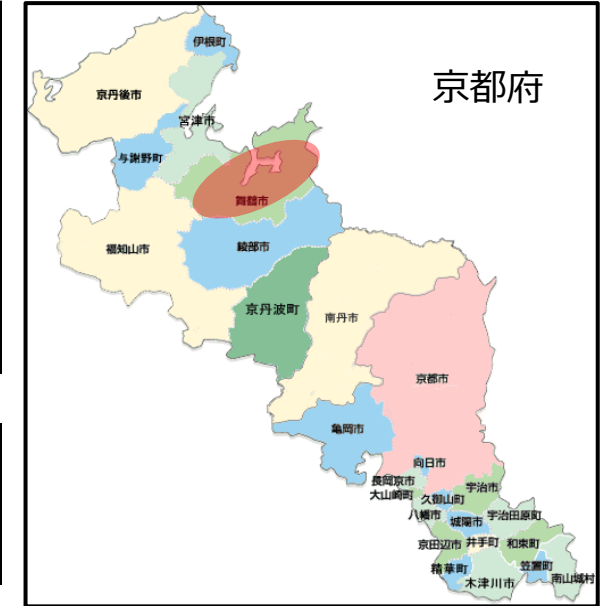
1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員：	19人
○ 農地利用最適化推進委員：	17人
○ 事務局職員：	6人
○ 市町村行政との連携状況：	事務局との兼務に より恒常的に連携を図っている



2 地区の特徴、状況、課題

○「万願寺甘とう」や「舞鶴産のお茶」など、全国に誇れる魅力ある農作物の生産に取り組んでいるが、農家の高齢化や担い手不足、有害鳥獣による被害、さらには中山間地域ならではの零細な経営規模等、地域農業の取り巻く課題は多山積する。



3 委員による継続した話し合いの取組内容

○令和2年7月の委員改選に合わせて、これまで3エリアであった地区別会議を概ね中学校区単位の6エリアに細分化。これまで以上に対象地域を明確に最適化推進活動を行うこととした。

○各地区別会議では、「農業（推進）委員は農業界の民生児童委員」であることを認識し、こまめな地域活動の実践と情報交換を行うことを確認するとともに、各エリアごとに課題研究テーマを設けるべく、その絞り込み作業を行った。

4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

○地域の実情を把握するために、農家アンケートが必須であるとの意見がどの地区別会議からも寄せられたことから、市と連携して市域全体（概ね農事組合が組織された集落）で調査を実施。（11月～12月に調査用紙を配布、回収）

○地区別会議の開催自体は、新型コロナウイルス感染症対策のため思うように開催できなかったが、次年度はいい意味で競い合うように会議の定例化を図りたい。

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください